

御前崎のビーチを守る勉強会

平成 27 年 11 月 30 日

- 日 付：平成 27 年 11 月 15 日（日）
- 時 間：14：00～
- 場 所：御前崎市文化会館
- 参加者：29 名
- O S P：7 名



近年問題視されている、砂浜の浸食ですが、ここ御前崎でも大きな問題となっています。

砂浜の減少により、波が防波堤を越え道路まで押し寄せるため、頻繁に通行止めが起こり、ガードレールなどの塩害やアスファルトの腐食が進みます。

数年前には、台風の高波により、道路が決壊し、大掛かりな補修工事が行われました。

私達の生活だけでなく、アカウミガメの産卵や波の立ち方、深海生物への影響などさまざまな所で、問題が起こってきます。

そこで、今回、土木研究センターより、養浜研究をされている石川氏をお呼びし現在の遠州灘の状況についてお話をさせていただきました。

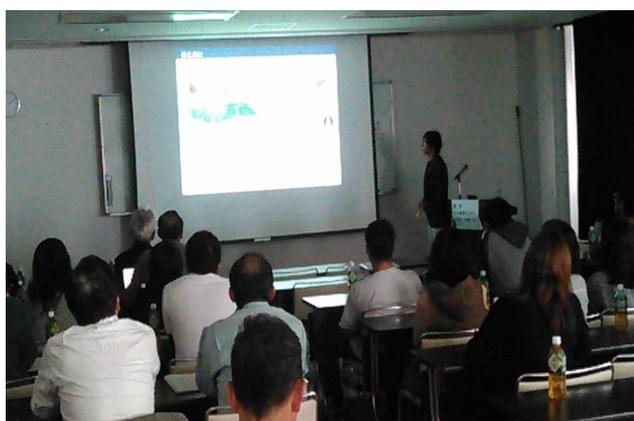
勉強会には、漁業関係者を始め、マリンスポーツ愛好家の方や地元の方に参加いただき、開催いたしました。

— 第1部 —

講義 : 「遠州灘の海岸について」

講師 : 石川 仁憲 氏

(一財 土木研究センターなぎさ総合研究室 主任研究員)



遠州灘の御前崎ロングビーチの砂浜では、西から流れつく砂や、反対に海へと流される砂等、プラスマイナスすると毎年 20000 m^3 (大型ダンプ約 4000 台) の砂が減少している事になるそうです。

砂浜が減少している事は、目に見え分かりますが、実際どのくらいの砂が流れていつているか想像もつきませんでした。1年でこれほど多くの砂が減っているとは思いませんでした。

何十年前では、丘から波打ち際まで砂浜が長く続き、岩が出て、磯遊びが楽しめましたが、今では、道ギリギリまで波が来るため、とても危険ですし、綺麗な砂浜で遊ぶ事も難しくなっています。

遠州灘とは、反対に駿河湾では、多くの砂が溜まり除去をしても追いつかないという現実もあります。

どうしてこのような問題が起こるのか、山の切り崩しやダム・川や海の埋め立てなど遠州灘での問題だけではないようです。

— 第2部 —

議題： 浸食による問題点や解決策について

※グループに分かれてのワークショップ

各グループは、それぞれマリンスポーツ愛好家の方・漁業関係の方・行政・市民の方・起業家の方などカテゴリー事にグループを決めさせていただき、その立場での養浜について議論を交わしていただきました。



立場が違えば、出てくる問題点も大きく変わります。また、同じ問題点でも、解決策や今後自分達ができる事ややっていかなければならない事が違ってきます。

皆様、たくさんの意見をだしていただき、とても熱いワークショップの時間となりました。

その中で、問題点と今後の対策について各グループ事にまとめ発表をしていただきました。



< 問題点 >

- * 砂浜の減少
- * 海岸への越波による、道路への影響（通行止め等）
- * 海岸護岸の被災（塩害による傷みなど）
- * ウミガメの上陸・産卵の減少
- * 波の立ち方の違い
- * 一部での砂の増加（砂の偏りによる、地形の変化）



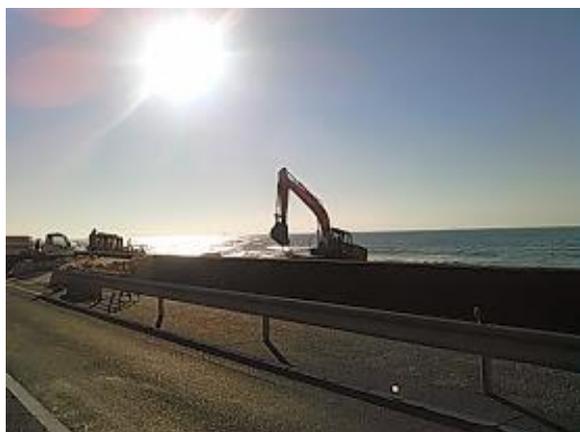
※マリンパーク西ビーチでは、減少する浜とは対照的に風の向きにより砂が溜まり、山になり毎回重機を使い砂を除去しています。



※砂の減少により、高波が道にまで上がり、通行止めが頻繁に起こります。台風だけでなく、大潮の満潮時には、起こることが多いです。

< 現在の対策 >

県より予算をつけていただき、砂が溜まる海岸や砂浜などや岸壁工事などによりできた砂を浸食の激しい箇所へ搬入していただいています。



砂の搬入の様子です。毎回同じ箇所ではなく、それぞれバランスを考え、搬入されていきます。上記は、以前に、道路が台風の越波により崩壊した箇所での砂入れです。

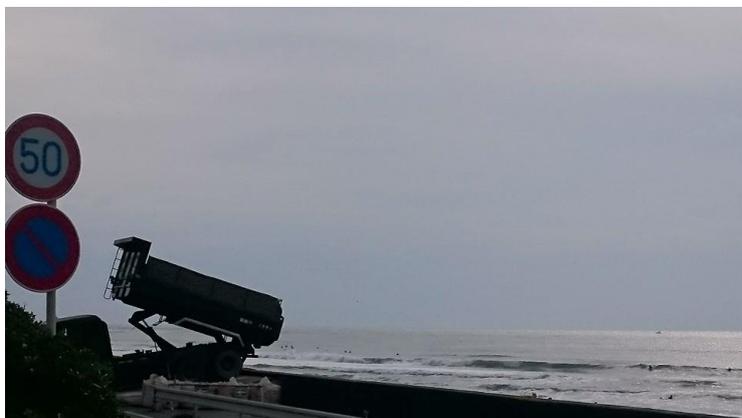
その他にも、ロングビーチも週箇所に分け、砂入れが行われました。

砂は自然なものですので、すぐに成果が見えないのが現状です。しかし、ここ数年で、わずかではありますが、波の割れ方が変わってきた事や減少を少しだが食い止められている事がわかってきました。

< 今後について >

- * 住民の方に周知してもらう事から始める
- * みんなで声を上げ行政へ働きかける
- * 漁業の方との連携も密にしさまざまな意見をいただく
- * ダムや川との関係性についても勉強する方が良い
- * 砂の搬入での経過や必要性をもっと多くの方にも知っていただく
- * 今の状態ではなく、何十年や何百年先を見据えた計画案を考える事が大事
- * 砂を入れて満足ではなく、こういった入れ方が良いのか研究をしている方から意見を聞き取り入れる
- * 子供の内から養浜だけでなく自然との向き合い方や山や海の恩恵を学ぶ授業を取り入れが必要
- * 今回の様な場を増やし、市民の方の積極的な参加を呼び掛ける
- * 御前崎へのウミガメの上陸についても考え、勉強する必要がある

上記の様にご参加いただいた皆様から様々な意見をいただく事ができました。お忙しい中、ご出席いただきました皆様、誠にありがとうございました。貴重な意見を聞く事ができ、勉強になりました。



今回こういった勉強会を主催させていただき、改めて海や川など自然でおきている事の重大さを感じました。ご参加いただいた皆様の意見にもありましたように、今ではなく、何年も先を見据えた対策が必要となってきます。未来の子供達のためにも、多くの自然を残し、こういった活動も引き継いでいく事が大事になっていくと思います。

御前崎スマイルプロジェクトでは、今後も養浜活動に力を入れ、勉強会や視察等を行い、キレイな砂浜を未来の子供達のためにも残せる様、活動していきます。

